

2002年度

# 第8回くまもとアートポリス推進賞



kap



くまもとアートポリス  
kumamoto artpolis

熊本県

# 第8回くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 堀内清治

平成14年度のくまもとアートポリス推進賞の募集に対しては、自薦他薦を合わせて41件の応募があった。選考委員会では、応募要項に従って、書類審査による第1次選考で12件の作品を選出して現地審査を行い、その成果を持ち寄った最終選考会では、推進賞3点、推進賞選賞2点を選出することができた。栄えある栄冠をかちとられた方々には心からお慶びを申し上げたい。

本年度の推進賞の特色として、現地審査に行って実際の建築を拝見してみると、事前の予想を上回る立派な作品が多かったことが挙げられる。委員の中には、この様子では書類審査で落とされた作品にも、見てみると良い作品があったのではないかという疑問の声も出た程で、今年の実選作品のレベルは例年よりも全般的に高かったと言っても良い。

現在の推進賞の選考委員会は8名の委員で構成されている。その中にはアートポリスの設計者に選ばれる第一級の建築家も入っている。元来プロの建築家の評価の基準は余り変動しないものであるが、今回の委員会では建築家の意見も地元文化人の委員の意見も大差がなく、見事に一致したことも本年度の特色の1つに挙げられる。

アートポリス推進賞は熊本県が県下の建築に対して贈る本格的な建築賞であって、同時に熊本県で活動する若い建築家の登竜門の役割

を兼ねている。その意味では、推進賞は建築家にとっては、本年度の熊本県を代表する建築家という名誉の争奪戦でもある。

ところで、周知のように、選考委員会の全員が応募全作品と向き合う機会は書類選考の時しかない。その時、現地審査から外された作品は、その後選考委員会の眼にふれる機会はない。だから書類選考は競技開始のジャブの応酬ではなく、名誉をかけた戦いそのものであって、その時点で勝敗を決めるのは最初に提出された応募書類しかない。然し、例年のことであるが、応募書類が御座なりな印象を与える例が依然として今回も散見された。実施図面の縮小コピーのような平面図や、逆光で良く分からない写真を何の説明も無しに並べている応募書類では、始めから戦意を喪失していると解釈されても抗弁のしようがないではないか。

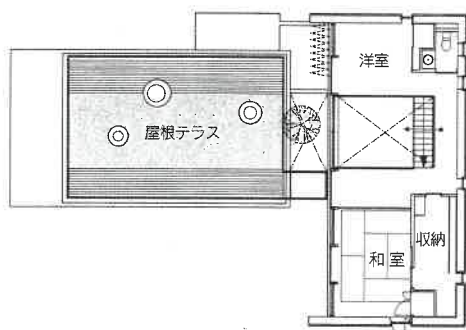




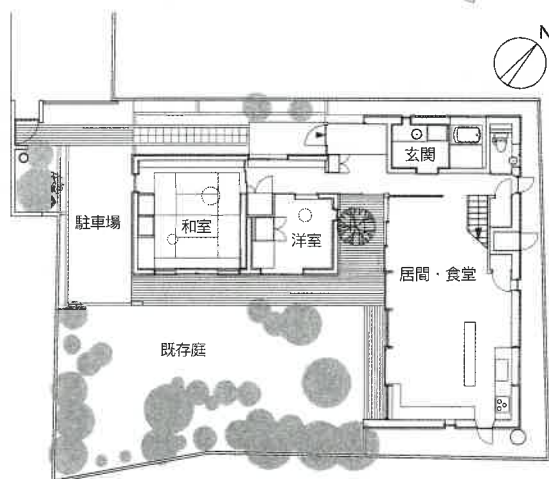
## 久野邸

所在地 ■ 熊本市渡鹿  
 竣工年月 ■ 平成14年3月  
 用途 ■ 専用住宅  
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造  
 階数 ■ 地上2階  
 敷地面積 ■ 348.33㎡  
 建築面積 ■ 115.92㎡  
 延床面積 ■ 152.25㎡  
 事業主 ■ 久野啓介  
 設計者 ■ 久野啓太郎十一級建築士事務所ヒマラヤ  
 施工者 ■ 株式会社岩永組

2F



1F



都市部における戸建て、二世帯住居をきっぱりしたモダニズムの表現にたって実現した爽快な住宅作品として高く評価した。

L型の平面設計は既存の庭部分の尊重と将来変化するであろう周辺環境への対応から導き出されたものといえるが、両親の個室を含む低層ブロックと共有部、子の居住空間を含む2層棟ブロックの2つのヴォリュームを形態的、空間的に効果的に連続することで、豊かな住空間の演出が成功している。

2層ヴォリュームの部分は1階の天井高を抑え、対比的に上階層の天井高を上げることで、吹き抜け空間を活かした空間のダイナミズムが十分に獲得されている。低層部の屋根を利用した芝生テラスなどが活かされた階層の構成によって、断面計画の中に単純、明快な解決が見いだせる。

近代建築が生んだ空間処理の方法をよく咀嚼した上の巧みな操作が導かれているように思う。構造、環境技術の処理、仕上げの選択など全てに優れた完成と思考が読みとれた。モダニズムの現在を率直に感じる作品で、推進賞にふさわしい高い質をもつ。

(岡部憲明)



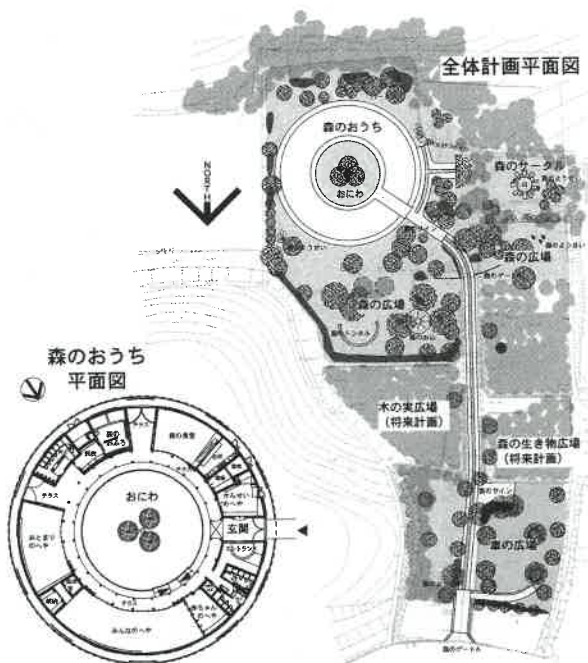


くまもとアートポリス  
推進賞



## 立田山野外保育センター「雑草の森」

所在地 ■ 熊本市龍田陳内1-5-66  
 竣工年月 ■ 平成14年3月  
 用途 ■ 児童厚生施設  
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造一部木造  
 階数 ■ 地上1階  
 敷地面積 ■ 4,985.68㎡  
 建築面積 ■ 776.23㎡  
 延床面積 ■ 678.27㎡  
 事業主 ■ 社団法人熊本市保育園連盟  
 設計者 ■ 田崎順ニラandscapeプロジェクト株式会社  
 施工者 ■ 株式会社冨坂建設



この建物は、就学前児童(幼児)の心身の健康と豊かな個性を育むことを目的とした野外環境学習施設である。機能としては、食堂・集会の場・宿泊室・風呂・先生の部屋などで構成され、それらが真ん中の「おにわ」を中心として円形ドーナツ状に配置されている。従来、円形の平面形式をとると、求心性がそこに表れ、いかにも形式的な空間構成となってしまう。しかし、ここ「雑草の森」ではそのような堅苦しさも感じられず、深く張り出した軒が室内と「おにわ」の中間領域をつくり出すと同時に、幼児からみたスケールが配慮された空間構成は、親しみやすさを感じさせる。玄関部分をはじめとし、適度にドーナツ状平面にあげられたテラスは、外部の「森」と「おにわ」とを適度に近づけて閉塞感もなく、この建物全体がもつ伸びやかさを創出している。細かなディテールの詰めに若干の弱さもあるが、多用した木材の温かみと、大らかな構成は、幼児の施設として高く評価してよいだろう。

(早川邦彦)





くまもとアートポリス  
推進賞

kumamoto artpolis

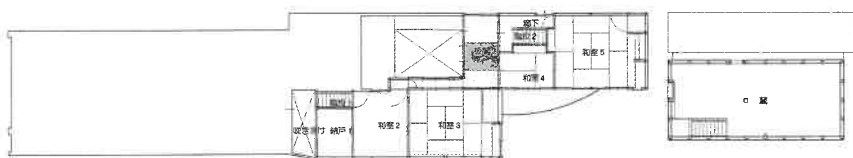
## 八代の町屋

所在地 ■ 八代市本町  
竣工年月 ■ 平成14年2月  
用途 ■ 店舗併用住宅  
構造 ■ 木造  
階数 ■ 地上2階  
敷地面積 ■ 322.25㎡  
建築面積 ■ 314.21㎡  
延床面積 ■ 525.80㎡  
事業主 ■ 坂井和子  
設計者 ■ ばん設計小材事務所  
施工者 ■ 有限会社楠元建設

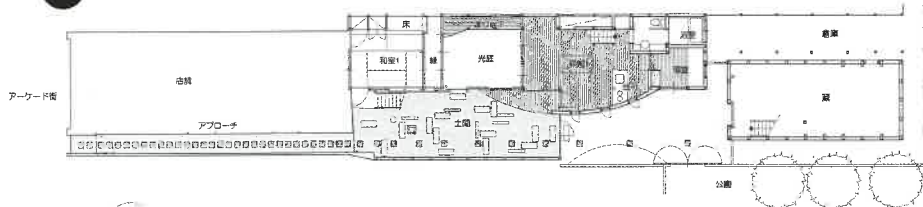
商店街の真ん中に在る、町屋のリニューアルである。案内された入り口は、市の和風庭園を横切つての突き当たりであった。長い時間を経た、しっかりとした町屋を丁寧に、そして控えめに手を加えて作り出された空間は、静かに奥深く佇んでいた。アーケード商店街に面した部分は現在もテナントとして貸し出されているが、その雑騒を感じさせない別世界空間の仕上げは見事である。商店街側からの導入路もいい雰囲気である。採光や通風のために大きく手を加えた部分もあるのだが、どこにも不自然さは感じず、古さを活かした気持ちのいいモダンな感覚に充ちていた。前述したが、手を加え過ぎずに足し算と、引き算のテクニックがバランスよく配されている。2階は、一見、手直しだけの工事に見えた。これも設計・施工関係者のセンスの表れであろう。この存在感は関係者の手腕と共に、この家屋の持つ力量に他ならない。見て回った後、選考委員の全てが、それぞれに腰を降ろして、いつまでも立ち上がろうとしなかったのが、この空間に対する無言の高評価であるように感じた。

(轟多朗)

2F



1F



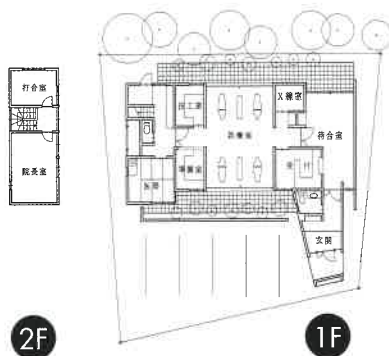


くまもとアートポリス  
推進賞選賞



## いのうえデンタルクリニック

- 所在地 ■ 熊本市新南部4-1-20
- 竣工年月 ■ 平成10年8月
- 用途 ■ 歯科診療所
- 構造 ■ 木造
- 階数 ■ 地上2階
- 敷地面積 ■ 332.00㎡
- 建築面積 ■ 154.74㎡
- 延床面積 ■ 167.96㎡
- 事業主 ■ 井上公敏
- 設計者 ■ 西山英夫建築環境研究所
- 施工者 ■ 株式会社富坂建設



スッキリとしたボックスタイプで凝った設えはないのに、結構自己主張を感じさせる建物が目に付く。歯科医院らしくない「デンタルクリニック」だ。

壁の一面をガラス張りにして、生垣の緑を室内まで取り込んだ待合スペースは、休日を利用して地域の英会話教室として利用されているとか。個人住宅のリビング的感覚の心地よさを意識した設計になっている。診察室は天井が高く、部屋の両側に壁一杯に広がるガラス窓を取り付けた広いワンルーム。治療椅子に座ると、ガラス窓越しに見える竹林と生垣の緑が木質の壁と相まって歯の治療を忘れさせる程のアメニティ空間を作り上げている。

直線の建築デザイン、茶と白、そして自然の緑というカラーコーディネートが地域に溶け込む新しいタイプのデンタルクリニックになっているようだ。

(星子邦子)



くまもとアートポリス  
推進賞選賞



## 大野温泉センター

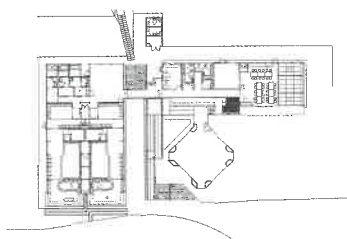
- 所在地 ■ 芦北郡芦北町大字天月1000
- 竣工年月 ■ 平成13年2月
- 用途 ■ 公衆浴場、レストラン
- 構造 ■ 木造一部鉄骨造
- 階数 ■ 地上1階
- 敷地面積 ■ 17,707.95㎡
- 建築面積 ■ 903.93㎡
- 延床面積 ■ 850.45㎡
- 事業主 ■ 芦北町
- 設計者 ■ 株式会社日建設計
- 施工者 ■ サンエー・松下建設工事共同企業体  
太陽電気株式会社芦北営業所



冬枯れの風景にすっぽりおさまっていた。建物はだまかに3棟に分類できる。物産館と、それを取り囲むような温泉施設、レストランである。

何よりこの施設は、地域密着の運営を続けているという点で群を抜いていた。それは、設計段階から地元と度重なる話し合いをした姿勢に表れている。物産館の天井裏の木組みには先人の使った様々な農具が置かれ、レストランには炊事場に見える場所に大きなカマドが二つ据えられている。緩やかなスロープを設けて壁に絵画を展示できるようにしたり、要望の強かった五右衛門風呂を造り付けたりと、随所に住民の希望がかなえられている。大規模な設計事務所に対する印象とは異なり、細部にみられる心配りに好感が持てた。地元の声を真摯に受け止めた結果だろうと、一致した評価であった。

(松下純一郎)



# 受賞作品一覧 くまもとアートポリス推進賞

## 2002年度 第8回



46 ■ 久野邸  
【熊本市】



47 ■ 立田山野外保育センター「雑草の森」  
【熊本市】



48 ■ 八代の町屋  
【八代市】



49 ■ いのうえデンタルクリニック  
【熊本市】



50 ■ 大野温泉センター  
【芦北郡芦北町】

### 2001年度 第7回



39 ■ 荏原九州  
【玉名郡南関町】



40 ■ K.Residence  
【熊本市】



41 ■ つなぎ美術館  
【芦北郡津奈木町】



42 ■ 樺田の舎  
【熊本市】



43 ■ ガレリアのある舎  
【玉名市】



44 ■ chase  
【本渡市】



45 ■ キューネット社員寮「希翔館」  
【熊本市】

### 2000年度 第6回



32 ■ やつしるハーモニーホール  
【八代市】



33 ■ 城南の舎  
【下益城郡城南町】



34 ■ 中央町福祉保健センター「湯の香苑」  
【下益城郡中央町】



35 ■ ネクステージビル  
【熊本市】



36 ■ 熊本YMCA  
阿蘇キャンプメインホール  
【阿蘇郡阿蘇町】



37 ■ セカンドサイト  
【熊本市】



38 ■ 霧の斎場  
【球磨郡多良木町】

### 1999年度 第5回



25 ■ 水上村立湯山小学校  
【球磨郡水上村】



26 ■ 中央町総合交流ターミナル「石段の里 佐俣の湯」  
【下益城郡中央町】



27 ■ 植柳新町公民館  
【地域学習センター】  
【八代市】



28 ■ シルワ・エッセ  
【熊本市】



29 ■ 50M-棟の森美術館  
【阿蘇郡小国町】



30 ■ 宮崎耳鼻科  
【熊本市】



31 ■ 矢野邸  
【熊本市】

### 1998年度 第4回



18 ■ 老人保健施設 かがみ苑  
【八代郡鏡町】



19 ■ 熊本県信用保証協会  
八代支所  
【八代市】



20 ■ HOUSE:H-M  
【球磨郡深田村】



21 ■ 水俣市保健センター  
水俣市総合もやい直しセンター  
【水俣市】



22 ■ 古閑邸  
【熊本市】



23 ■ 聖母の丘  
【熊本市】



24 ■ 宮原町下室はまどん公園  
【八代郡宮原町】

### 1997年度 第3回



12 ■ 久連子古代の里  
【八代郡泉村】



13 ■ 養護老人ホーム  
八代市立保寿寮  
【八代市】



14 ■ 水俣市宮洗切団地  
【水俣市】



15 ■ 丸尾焼工房  
【本渡市】



16 ■ 人吉の舎Ⅱ/平井邸  
【人吉市】



17 ■ 浮島周辺水辺公園  
【上益城郡嘉島町】

### 1996年度 第2回



9 ■ 慈愛園ノーマンホーム  
【熊本市】



10 ■ 阿蘇白水温泉「瑠璃」  
【阿蘇郡白水村】



11 ■ ふるさとセンターY-BOX  
【玉名郡横島町】

### 1995年度 第1回



1 ■ 小国町立西里小学校  
【阿蘇郡小国町】



2 ■ 串陽村石匠館  
【八代郡東陽村】



3 ■ 八代広域行政事務組合  
消防本部庁舎  
【八代市】



4 ■ 野田市兵衛商店  
流通団地営業所  
【熊本市】



5 ■ 清和物産館  
(四季のふるさと)  
【上益城郡清和村】



6 ■ 荒瀬ダムボートハウス  
【八代郡坂本村】



7 ■ 出田眼科病院  
【熊本市】



8 ■ 尚玄山荘  
【玉名市】

■ …くまもとアートポリス推進賞  
■ …くまもとアートポリス推進賞選賞

# 第8回くまもとアートポリス推進賞

## ■ 募集要項

### ■ 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化等の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や各種のイベント、広報活動を行っています。

さらに幅広く県民の皆様の御理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を行っています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と都市環境並びに建築文化等の向上を目指し、併せて豊かな地域づくりを図ることを目的としています。

### ■ 表彰対象

平成14年3月以前、概ね5年以内に施工(改造、改修、修復を含む)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く)とします。

### ■ 選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工、及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- ① 優れたデザインが行われているもの
- ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの
- ③ 良好な施工が行われているもの
- ④ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの
- ⑤ 施設の活用に創意工夫がみられるもの
- ⑥ 維持・管理が良好なもの
- ⑦ 地域づくりに寄与しているもの

### ■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。

事業主(必要に応じて管理者を含む)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。また、事業主に銘板を贈ります。

### ■ 応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

### ■ 選考委員会

岡部 憲明(岡部憲明アーキテクチャーネットワーク代表/神戸芸術工科大学教授)

桐敷真次郎(東京都立大学名誉教授)

轟 多郎(熊本県文化協会理事)

早川 邦彦(早川邦彦建築研究室代表)

星子 邦子(オフィスホシコ代表/消費生活コンサルタント)

堀内 清治(くまもとアートポリスアドバイザー/熊本大学名誉教授)

松下純一郎(熊本日日新聞社社会部次長兼論説委員)

渡辺 定夫(工学院大学教授)

### ■ 選考経過

募 集 平成14年8月19日～9月24日 応募件数41件

書類選考 平成14年10月22日

現地審査 平成15年1月9日～11日 現地審査件数12件

最終選考 平成15年1月11日 推進賞3件、推進賞選賞2件

表 彰 式 平成15年3月19日

## 熊本県

### 土木部建築課

〒862-8570

熊本市水前寺6丁目18番1号

TEL. 096(383)1111(内線6215)

FAX. 096(384)9820

<http://www.artpolis.net/>



### くまもとアートポリスのマーク

シンボルマークは3つの楕円と1つの小さな丸で構成されています。

3つの楕円は、左から順に「地球/世界」「くまもとアートポリス/熊本」「ひと/地域」が、互いにつながっていることをあらわします。

楕円の傾きは地球の地軸の傾き(太陽を中心とする公転軌道に対する地球の軸/南北軸の傾き)と同じ23.5度です。

シンボルマークは、くまもとアートポリスの目標「地域と対話、地球とネットワーク」に対応しています。くまもとアートポリスは、地域に生活する人々と対話しながら様々な建造物や環境を創造します。同時にこのような活動は、常に地球規模のネットワークとも繋がりが、世界的な環境への配慮や地域文化的な広がりをもっていることを示しています。